

環境活動レポート 4939
西部ビル管理株式会社
更新 R5.6

エコアクション21 環境経営レポート

令和4年度
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和5年6月10日
作成：谷川 広行

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

西部ビル管理株式会社
代表取締役社長 谷川 広行

(2) 所在地

福岡県北九州市戸畑区幸町1番19号

(3) 環境責任者指名及び担当者連絡先

責任者	取締役会長	谷川 義行	TEL 093-881-5746
担当者	取締役会長	谷川 義行	TEL 093-881-5746

(4) 事業内容

- ・清掃管理業務(日常清掃、定期清掃、臨時清掃、他清掃一般)
- ・設備管理業務(電気、冷暖房空調、給排水設備の操作及び保守管理)
- ・保安警備業務(建物警備、駐車場管理)
- ・環境衛生管理業務(空気環境測定、飲料水の水質検査)
- ・貯水槽清掃業務
- ・衛生害虫駆除業務
- ・受付・案内・電話交換業務
- ・一般労働者派遣業務

(5) 事業規模

・設 立	昭和39年11月17日
・資 本 金	3000万円
・従業員数	300名(換算従業員数 171名)
・事業年度	4月1日～3月31日
・年 商	58400万円(R3. 4～R4. 3)

(6) EA21の環境活動 登録範囲の事業

全組織・全活動を認証・登録の範囲としている。

令和4年度(令和4年4月～令和5年3月) 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量 平成29年度目標値を維持							
取組目標	活動項目		責任者	令和4年度活動計画			
				4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
1 電気使用量の削減	1	エアコン設定温度を定める(冷房28℃暖房20℃)	本多		冷房	暖房	暖房
	2	昼休みの消灯	本多	←	実行		→
	3	残業時の不要な照明の消灯	本多	←	〃		→
	4	長時間席を離れる時の、パソコンの電源OFF	本多	←	〃		→
	5	不要電力消費抑制(不要な場合は機械を止める運動)	本多	←	〃		→
2 ガソリン使用料の削減	1	省エネドライブ,アイドリングストップの励行	岩永	←	実行		→
	2	管理現場移動時の、効率的な移動(相乗りの励行)	岩永	←	〃		→
	3	車両の燃費管理を行う	岩永	←	〃		→
3 軽油使用料の削減	1	省エネドライブ,アイドリングストップの励行	岩永	←	実行		→
	2	管理現場移動時の、効率的な移動(相乗りの励行)	岩永	←	〃		→
	3	車両の燃費管理を行う	岩永	←	〃		→

2. 廃棄物排出量 平成29年度目標値を維持								
取組目標		活動項目		責任者	令和4年度活動計画			
					4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
1	排出ごみ袋の削減	1	分別を徹底してリサイクル率を向上する	本多	←	実行	→	→
2	コピー用紙の削減	1	複数ページにわたるコピーは、原則両面コピーとする	本多	←	〃	→	→
		2	社内資料は、できるかぎり裏面コピーとする	本多	←	〃	→	→
		3	コピー機使用時は、枚数・拡大・縮小等の誤りが無い様 使用前にコピー機の設定を確認する	本多	←	〃	→	→

3. 総排水量 平成29年度目標値を維持								
1	水使用量の削減	1	節水活動の励行	本多	←	実行	→	→
		2	水を出しっぱなしにしない	本多	←	〃	→	→
		3	節水コマの設置検討と導入	本多	←	〃	→	→

4. 化学物質使用量 29年度目標値を維持								
1	洗剤使用量の削減 (一般洗剤使用量含む)	1	使用洗剤の適正希釈倍率の実施	谷川	←	実行	→	→
		2	その日使用する量を予測して、希釈洗剤を作る	谷川	←	〃	→	→

5. グリーン購入 平成29年度目標値を維持								
1	再生紙使用・エコマーク商品 購入の推進	1	コピー用紙等の再生紙への転換	谷川	←	実行	→	→
		2	エコマーク商品の優先的な購入	谷川	←	〃	→	→

6. 環境にやさしい製品・技術の開発 平成29年度目標値を維持								
1	・エコ洗剤販売・看板復活再生 サービス・エコチューニング ・強アルカリイオン電解水生成 装置の購入	1	自社プロデュースによるエコ洗剤の開発、販売	谷川	←	実行	→	→
		2	看板復活 再生サービスを開発・施工	谷川	←	〃	→	→
		3	エコチューニングの提案・施工		←	〃	→	→
		4	従来洗剤から、強アルカリ水(PH13.1)に変更		←	〃	→	→

6. 環境目標の実績

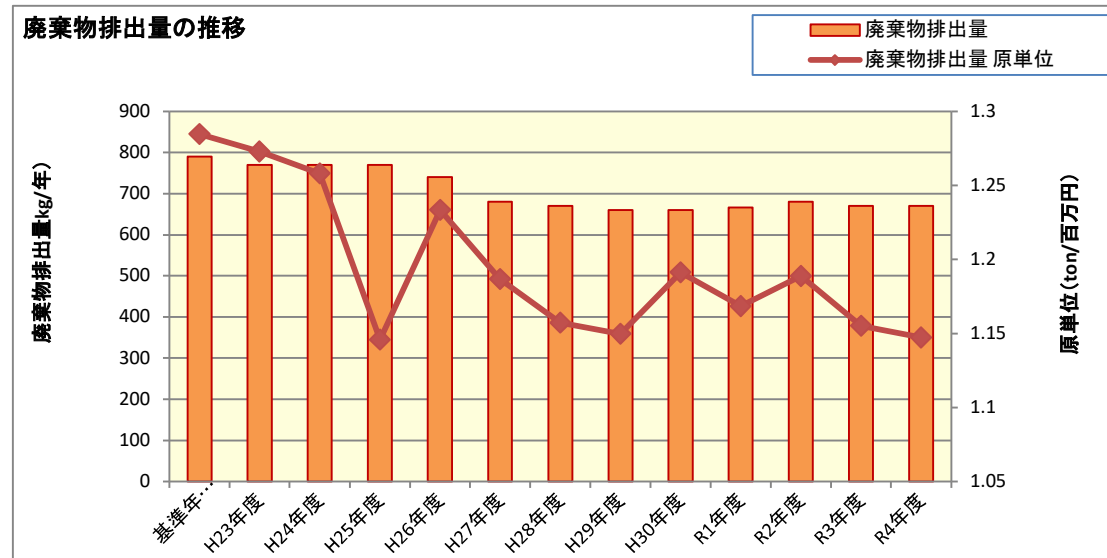
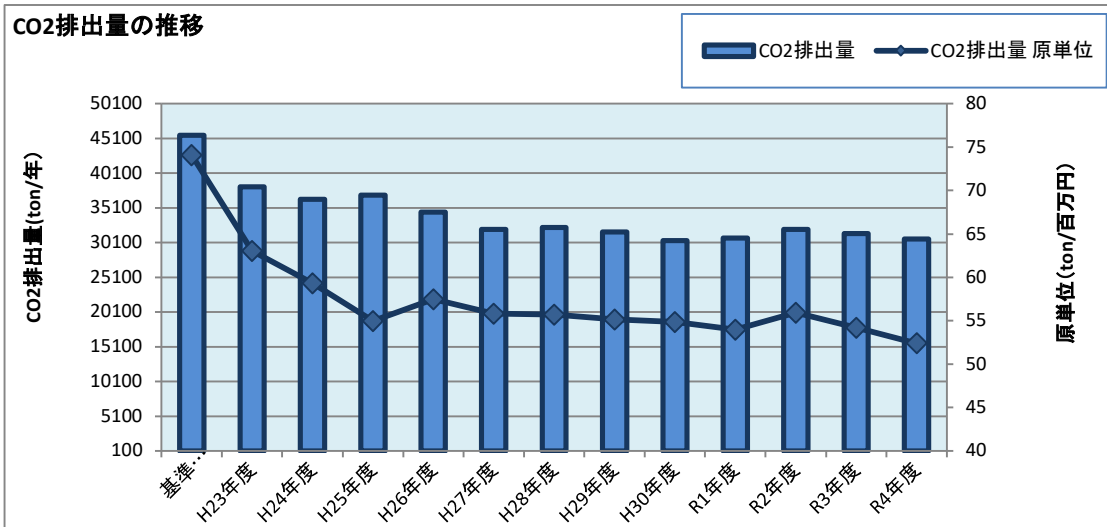
・令和4年4月～令和5年3月の運用の期間の目的に於ける実績は以下の通りであった。

項目	単位	基準年度 平成29年を 維持	令和4年 全期1年分		目標達成 の判定
			目標	実績	
二酸化炭素総排出量	Kg-CO ₂	31,657		30,502	—
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO ₂ /百万円	56.39	56.39 以下	52.23	○
電気使用量の削減	KWH/百万円	23.90	23.90 以下	25.14	×
ガソリン使用量の削減	L/百万円	13.45	13.45 以下	10.89	○
軽油使用量の削減	L/百万円	4.02	4.02 以下	4.45	×
廃棄物総排出量	t	0.67		0.67	—
廃棄物の排出量削減	t/百万円	0.00120	0.00120 以下	0.00115	○
排水総排出量	m ³	186.00		165.00	—
排水量の削減	m ³ /百万円	0.318	0.318 以下	0.283	○
化学物質排出量	kg	3,180		1,040	—
洗剤使用量の削減	kg/百万円	5.52	5.52 以下	1.60	○
グリーン購入の推進	品目総数	6	6 以上	6	○
環境にやさしい製品・技術の開発	品目総数	3	3 以上	3	○

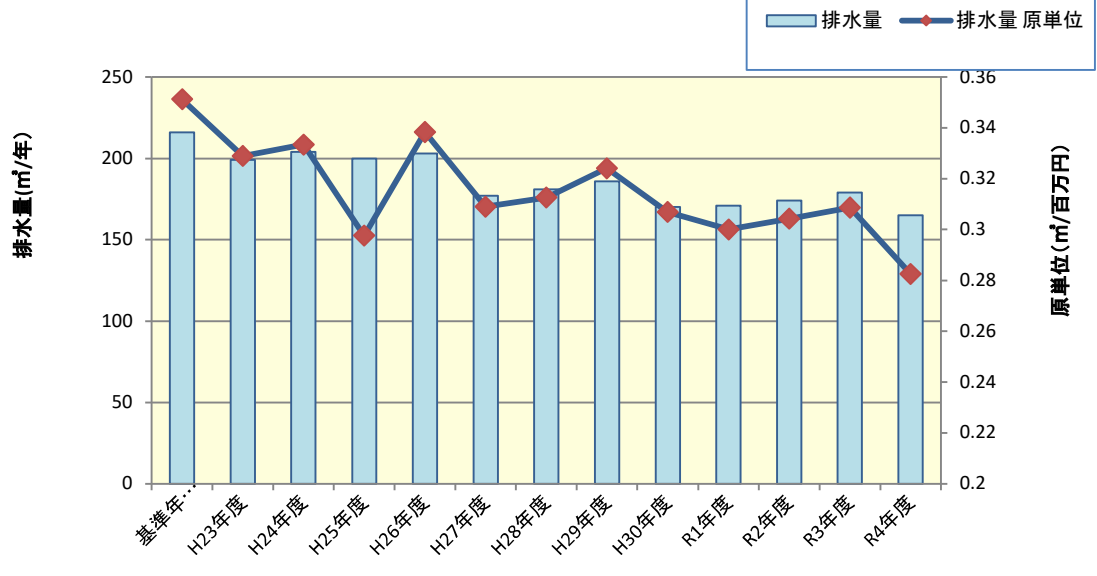
※ 二酸化炭素排出量算定にもちいる購入電力排出係数は0.613Kg-CO₂/KWH(平成25年度九州電力)を使用

※2018年度(平成30年度)より2017年度(平成29年度)の環境経営目標値の維持を新環境経営目標値とした。

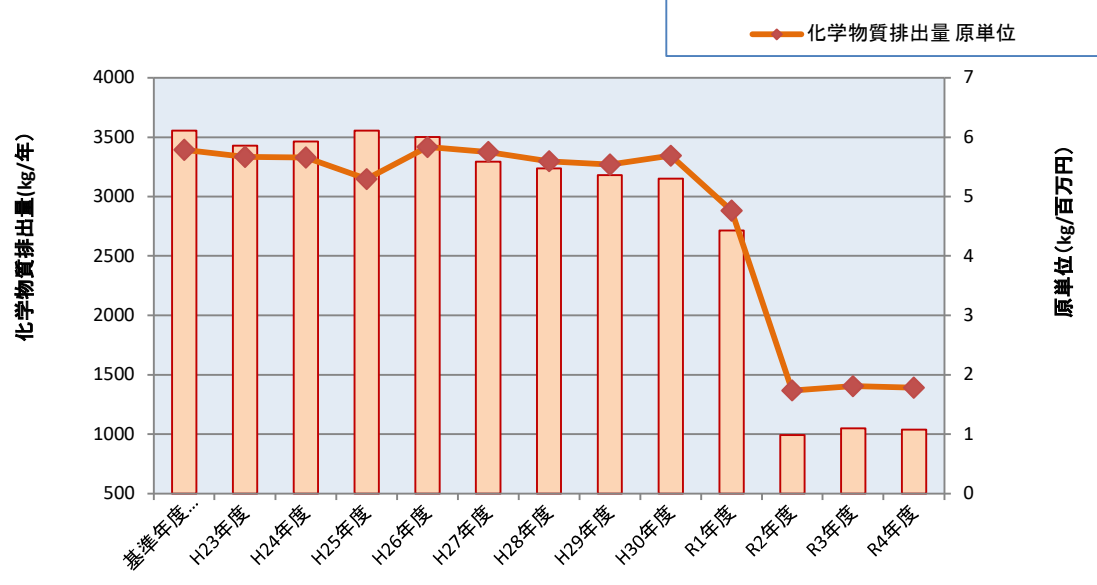
※ 化学物質排出量は、洗剤の削減を目的とする為、化学物質使用洗剤と一般洗剤の合計数量で管理



排水量の推移



化学物質排出量の推移



7. 環境活動の取組結果とその評価及び次年度の取組内容

7-1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

- ・節電意識は定着していると評価されるが、今年度は目標値達成率105.2%と未達成であった
- ・電気使用量削減の励行を行ってきたが、夏季・冬期の冷暖房期で7ヶ月が未達成となった
- ・次年度は、特にエアコン温度設定等の計画実行、不要電灯の消灯を重点的に行う

(2) ガソリン使用量の削減

- ・省エネドライブはかなり実行出来ていると思われる
- ・年間では達成できたが、1ヶ月は未達成であった
- ・次年度も移動時の効果的移動に心がける

(3) 軽油の使用量の削減

- ・省エネドライブはかなり実行出来ていると思われる
- ・年間でも未達成であり、6ヶ月は未達成であった。しかしながらガソリンと軽油の合計使用量では達成されている。ガソリン車に比べ軽油車が多く使用されたためである。
- ・次年度も移動時の効果的移動に心がける

7-2. 廃棄物(事業系一般廃棄物)の排出量削減

(1) 排出ごみ袋の削減

- ・目標値は達成されたが、ごみ袋1袋の差で達成・未達成に分かれる
- ・次年度も、ごみ排出量減らすとともに、1袋当たりの入れる量を増やしゴミ袋の使用量を減らす

(2) コピー用紙の削減

- ・FAXの受信をネットで受け、必要分のみコピー(紙ベース)とした。
- ・次年度もコピー用紙の無駄をなくし削減に努める

7-3. 総排水量の削減

- ・節水意識は定着していると評価される
- ・今期は全月達成であった
- ・次年度も、節水に努める

7-4. 化学物質移動量の削減

- ・削減意識は定着していると評価される
- ・年間で達成した、特に平成2年1月に強アルカリ電解水生成装置を購入し、水道水より強アルカリ水(PH13.1)社内で生成し使用を始めた結果、購入洗剤が激減し、それまでの達成率90~100%が30%台に減少した。
- ・品質にかかわることであり、洗剤の使用抑制はできないが、今後も無駄な洗剤使用量の削減に努める
- ・次年度も、購入洗剤から強アルカリ水(PH13.1)への変換を行う、又希釈倍率の順守を守り削減に努める

7-5. グリーン購入の推進

- ・次年度も、事務用品等のエコマーク、グリーンマーク商品を優先的に購入する
- ・自社プロデュースによるエコ洗剤(PB)を開発、販売を開始した
- ・次年度も、事務用品等のエコマーク、グリーンマーク商品を優先的に購入する

7-6. 環境にやさしい製品・技術の開発

- ・エコ洗剤販売、看板復活、再生サービス・エコチューニング事業を行う。

7-7 その他

- ・品質に係ることもあり、電気・ガソリン・水等過度な使用抑制は出来ないが、無駄の排除に努める様活動し
- ・北九州市より「エコアクション21」認証・登録支援事業として「北九州市環境にやさしい事業所」として感謝状授与される
- ・北九州市の「古くなった屋外看板・ロードサイン・標識塗装面の再生サービス」を環境配慮型サービスとして「北九州エコプレミアム」に選定される
- ・第一種エコチューニング技術者の資格取得

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果、違反・訴訟等の有無

自己チェックした結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

引き続き環境関連法規遵守の維持に努めます。

廃棄物処理法	遵守状況チェック 問題なし
消防法	遵守状況チェック 問題なし
PRTR法	遵守状況チェック 問題なし
下水道法	遵守状況チェック 問題なし
ビル管理法	遵守状況チェック 問題なし
フロン排出抑制法	遵守状況チェック 問題なし

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

- ①環境経営システムも有効運用期間から13年目となったが、目標に向かっての実施体制、行動指針、活動内容等、PDCAはうまく回っていると考えられる。
- ②2018年度(平成30年度)より2017年度(平成29年度)の環境経営目標値の維持を新環境経営目標値とした。
- ③ガソリン、二酸化炭素排出量は年間では達成できたが、電気、軽油は未達成であった。月別では電気は7ヶ月、ガソリンは1ヶ月、軽油は6ヶ月未達成月があった。ただし、ガソリンと軽油の合計使用量では達成されている。
- ④化学物質使用量は平成2年1月に強アルカリ電解水生成装置を購入し、水道水より強アルカリ水(PH13.1)を生成し、使用を始めた結果、購入洗剤が激減し、それまでの達成率90~100%が30%台に減少した。今後も購入洗剤から強アルカリ水(PH13.1)へと変換する。
- ⑤排水量は年間を通し、達成があった
- ⑥廃棄物排出量・グリーン購入の目標値は達成された
- ⑦平成30年10月より「環境にやさしい製品・技術の開発」を追加した
- ⑧品質に係ることもあり、過度な使用抑制は出来ないが、今後も無駄の排除に努める様活動していく。
- ⑨環境経営方針は代表取締役社長変更に伴い(第4版)として改訂した。
- ⑩環境関連法規への違反、訴訟等はない。
- ⑪外部からの苦情も無く、問題点も発生していない。